

三隅地域協議会と議会との意見交換会記録

令和3年5月27日(木)
18時57分～21時28分
三隅支所 集会室

【出席議員】三浦議員、小川議員、布施議員、澁谷議員、西村議員、川神議長

次第

- 1 開会
- 2 地域協議会会長挨拶
- 3 議長団挨拶
- 4 自己紹介
- 5 意見交換
テーマ：①人口減少について ②定住について
- 6 地域協議会副会長終わりの挨拶
- 7 閉会

【議事の経過】

[18時 57分 開議]

1. 開会

澁谷議員

定刻より少し早いですが、ただいまから三隅地域協議会と議会との意見交換会を開会する。

レジュメにのっとして進めさせていただく。

2. 地域協議会会長挨拶

澁谷議員

初めに三隅地域協議会会長からご挨拶をいただく。

会長

お忙しい中、令和3年度第3回三隅地域協議会に本日お集まりいただいた。本日は浜田市議会との意見交換会ということで川神議長、小川班長を初め、三隅班の議員にお出かけいただいている。浜田市議会から提案を受けた本件については、2月5日の正副会長への事前説明に加え、昨年度第9回の三隅自治区地域協議会にて、三浦委員長からの説明をいただき、新しい試みとして期待を込め賛同の意をお示しし、5月10日を締め切りとして意見交換テーマを委員に募ったところ、全委員から提出いただいた。この取り扱いについて令和3年度第2回の三隅地域協議会で皆にお諮りし、意見の内容調整はせずこのまま議会へお渡しし、議会の意向もあると思うので、テーマは議会で決めていただくことと、意見には地域性があると思うので、まずはその地域性をご理解いただくため、三隅地域のこれまでの歩みをまとめた資料を添付することに同意いただいた上で、支所事務局から5月17日開催の議会広報広聴委員会に間に合うよう、委員名を削除した意見交換テーマをお届けしたところである。

また会議の進め方等については先週木曜日、5月20日に三隅班の小川班長と西村副班長ご両名と私と野上副会長が打ち合わせて本日に至る。

なお議会から示されたテーマはすでにお知らせしているが、人口減少についてと定住についてである。本案件について今後の扱いや会議を重ねるかどうかなどは未定と聞いており、当初受けた印象に若干の差異を感じるが、本日の意見交換会が近い将来、一体的なまちづくりに資する形で実を結ぶよう心から願っている。

今回の意見交換会は執行部に回答を求めるものではなく、地域課

事務局

題に対しどのような解決策があるかという観点で議論を深めていくということなので、議員のお力添えをお願いする。

では、意見交換に移る前に事務局から資料の確認をお願いする。

資料の確認に入る前に、本日は黒沢の石川委員が欠席である。

では資料の確認をする。事前にお送りしたものが2点。一つは資料1として「浜田市議会との意見交換テーマについて」。もう一つは「三隅地域、旧三隅町旧三隅自治区はこんなところですよ」。これらを事前に送っている。

また当日資料として本日のレジュメ、裏面はメモとなっている。2枚目に本日ご出席の方の名簿をつけている。3枚目に三隅地域協議会と議会との意見交換会座席表をつけている。

会長

では意見交換に移るが、進行は司会の澁谷議員にお任せしたい。よろしくをお願いします。

3. 議長団挨拶

澁谷議員

続いて浜田市議会から、川神議長にご挨拶いただく。

川神議長

本日三隅地域協議会と議会との意見交換会を皆にご提案させていただいたところ、快くお受けいただきお礼申し上げます。さらにはご多忙の中時間を割いていただき、我々議員との意見交換に参加していただいたことを重ねて感謝申し上げます。

議会広報広聴委員会から話があったと思うが、本来は各地域へ向けての議会報告会や井戸端会などで貴重なご意見を拝聴し、距離を縮めて市政に反映しようという試みをやってきた。しかしこの1、2年コロナ禍にあり、皆にお集まりいただくことも厳しい中、まずは各地域で地域課題に最前線で取り組んでいらっしゃる地域協議会の皆と意見交換会をやり、課題の理解、さらには我々の取り組みを幾らか理解していただきたいということでこの会を設けた。

各地で、議会は何をやっているかわからない、議会はどのような議論をしているのか、そういう厳しい話を伺っている。最近では議会基本条例という議会の憲法をつくり、市民とどういう形で向き合うのか、何をしていくのかを明文化している。それに基づいて、市民により寄り添って、我々としてどうやって地域課題を解決するのかを、議会内で真剣に議論している。今日もその一環ではあるが、最近では特に、今までは単独で議員活動をしていたのが委員会を中心

にしっかりと議員間で討論すること、さらにはその討論をもって最終的には委員会・議会で課題解決のための政策提言まで持っていこうと、議会も進化し続けている。

まだまだ不十分ではあるが、合議体で地域に真剣に向き合っていることをご理解いただき、今日は貴重な意見交換の中でそれが皆の暮らしの豊かさ、安定につながるような、最終的には議会提案に結びつけばよいと思っている。

今日はしっかりした意見を拝聴したい。

4. 自己紹介

澁谷議員

各議員を紹介させていただく。

《 以下、議員自己紹介 》

澁谷議員

では地域協議会委員の皆にも、一言ずつ自己紹介をお願いします。

《 以下、地域協議会委員自己紹介 》

5. 意見交換

澁谷議員

早速意見交換に移りたい。テーマは①人口減少について、②定住についてである。人口減少については合併の際に浜田市が平成17年、63,527人の人口だったが今は1万1千人以上減って5万2千人台になっている。

浜田市には総合振興計画があり、その計画には2060年に浜田市の人口は3万人を割るとされているが、実際は予定よりも人口減少が加速しているため、2045年には人口3万人を割ると推測している。高齢化も進み人口の37%が65歳以上であり、浜田市は超高齢化社会である。人口減少の中では自然減と社会動態という区分けがある。自然減は出生と死亡の差である。全国どの自治体においても少子高齢化の中、ほとんどがマイナスである。問題となるのは社会動態という流入と流出の差である。子育て支援などを強化している自治体においては流入のほうが多い自治体もあるが、浜田市の場合はここ数年マイナスになっている。またその中で一番問題となるのが出生数の減少である。合併当時400人以上の出生があったが、5年前から300人台になった。しかしその300人台は4年間しかもたず、昨年はどうとう296人となった。コロナの影響でこの数字を今年度も下回るのではと危惧されている。

委員

アウトラインを説明させていただいた。この人口減少と定住について、委員それぞれ思いがあろうかと思うので、ご発言をお願いします。挙手をお願いします。

人口減少はなかなかとめられないが、緩やかにする施策が必要である。また、浜田市の経済について。私は現役のときから地域に人と仕事を取り戻す、お金を圏域内でとどめる政策。皆もご存じのとおり藤山浩先生が持続可能な社会研究所をやっておられるが、あの方はいつも私がいた会社のテーマで来られて、ヒアリングしたりデータを渡したりした中で、それがどこまで効果があるかもあるが、人と仕事を取り戻すというのは、まず収入が安定しないとUターンの人も跡取りも戻ってこない問題がある。戻ってこないから耕作放棄地が増える。それをテーマに、人と仕事を取り戻すということを、地道な努力でやっていかないとU I ターンは帰ってこない。

もう一つは3ページ目に産業のことを書いたのだが、浜田港周辺整備でいろいろな施策が打たれているが、私が浜田の漁業関係者と話をすると、昔は加工業者が60軒くらいあったのがもう30軒くらいになっている。やはり後継者がいない。また一つ一つが零細で、話を聞けばそれぞれすごい技能を持っているが、零細のためにそれが実現できないということで、政策で30軒くらいをグルーピングか何か分けて、山陰浜田港らしい二次加工品や三次加工品を流通に乗せる。周辺整備で金を使うのもあるかもしれないが、それにかかわる人を大事にしないと人が戻ってこない。昔は久保田市長も水揚げ100億と言っておられたが、今は聞けば30数億くらい。その3倍くらいの付加価値が地域にあるはず。100億くらいの経済規模を考えて対策を打ってあげないとだんだん縮小していく。この間は沖合の船団も一つなくなった。まず魚、農業あたり、人と仕事を取り戻す。まず圏域内の商業を、どのように市として音頭を取って喚起するか。

BUY浜田運動と称して広島にルートをつくるなどいろいろした経緯があるが、それも支援がないと続かない。ぜひ、人と仕事を浜田に取り戻す。圏域内の消費を増やす。これらをテーマに行政も音頭を取っていったらよいのでは。

私は月に1回、隠岐の島へ行っている。今は全国の離島が尖閣諸島のようにならないよう、人が少しでも残って国土が守れるように離島促進法というのが強化され、全国で島を持つ市町村会の会長に海

士町の町長がついて、確定はしていないが知事は丸山知事になるのではと。島根県が市町村会と知事会のリーダーになって、何とか離島を守ろうと。一方、山を抱えて、昔から治山治水という言葉があるように山を治めないと水も治められない。水田が崩壊して水が川に流れ、下流で洪水が起きる。離島促進と同じように中山間地促進もやって守っていく。住人は協働のまちづくりでやるが、政策的なことはしづらい面があるので、ぜひお願いしたい。

澁谷議員

議員側から今の意見に対して何かあるか。今のご意見は34項目ある中の何番か。

委員

1番と8番と13番と32番。

澁谷議員

せっきくの意見に対して議員から何かあるか。

布施議員

働くところがない、浜田の基幹産業である水産業については指摘されたとおりである。掲げた目標は必要だが、何せ原魚が取れない。販路が広がらない。水産業も非常に苦慮している。とはいえご指摘があったように、そこに雇用される人たちは生計を立てねばならない。浜田市が進めている中で一番好評なのがふるさと納税。令和2年度実績は11億4千万。しかし100億には届かない。

コロナだから経済が悪いのではなく、販路をもっと広げる必要があるのではと我々も思っている。浜田市は水産業活性化委員会や、庁内でプロジェクトチームをつくり、議員も産業建設委員会を中心に浜田漁港の活性化について取り組んでいる。

先日、浜田港活性化について提言を委員会でまとめている。まずこの場で皆にお知らせしておきたいのが、旧お魚センターが2年以上閉鎖されていたがこの3月に山陰浜田港公設市場という名称で、仲買棟が3月21日に一部オープンした。それとは別に商業棟が、7月22日海の日にオープンする運びとなった。市民に対しては、今まで浜田に魚を買いに来て利用できず、広島の方も利用しようと思っても魚が高いとか、種類がないといった指摘があり、そういうことを反省してこのたびはお魚市場の指定管理者も広島業者だが、民間の販売にたけた方がおられてその方に任せ、商売のにぎわいづくりをしていただくということで、やっと漁港近くのにぎわい創出の核ができる。周布漁港があるし、そこにもいろいろ水産物があると思うが、浜田の特性を生かしたものづくり、どんちっちアジではなく違うものもブランド化して、ぜひ地産地消も大事である、しかし多

く稼ごうと思えば都会地に送るシステムを、行政も議会も知恵を出しながらやっ払いこうと、今産業建設委員会でやっている。

もう一つ、中山間地域のことを言われた。これも議長が2年前に、中山間地域にとって振興が大事だとして、特別委員会をつくった。その第1回目の委員長が井野出身の飛野議員であった。第2回目の委員長が田畑議員だった。三隅町の議員を中心に中山間地域における諸問題をテーマごとに取り組んで、行政に対して振興策の提言、やっていることとこれから要望すること、予算をつけてやること、そういうものを執行部にしっかり提言している。

ちなみに第1回のテーマが集落機能維持対策について提言した。第2回目が情報・通信・交通の確保対策について。第3回目が農林地の維持管理対策と耕作放棄地、鳥獣被害防止対策について。第4回目のテーマが中山間地域における安全安心対策について。こういったテーマで議長から市長に提言している。

これまで地域振興基金があったと思うが、それがなくなって、このたび10億円という特別枠がこの5年間ついた。この四つのテーマそれぞれにお金をつけて、皆の地域を守っ払いこうという政策に入っている。しっかりやっ払いるので応援していただきたい。

委員

人口減少と定住対策の課題は表裏一体である。関連する質問事項の番号が10番と16番。これが私から出した関連事項である。

島根県は東西に約230キロあり、離島も抱えている。どう見てももとより海と山と川しかない。むしろそれが地域資源だという考え方は以前から確かにあったと思うが、磨き方というか、掘り起こし方が十分できてない状況にもあったと思う。やはり海・山・川となると水産業あるいは農業、製造業、いわゆる魚食文化に関係した部分、あるいは山に関係した部分が大半の基幹産業だったはずである。ところがいつごろからか、派手なもの、大きなもの、効率的なものを追わんがために地域産業に目を向ける機会が少なくなり、その結果人口減少となる、後継者不足、支援育成が不十分なために人口減少にもつながっている要因もあると思っ払いいる。

令和元年11月22日の山陰中央新報に、地域維持特措法というのがあった。法律ができて若者を都会から地方へということで、この課題は今に始まった話では絶対はない。特措法を行政として実際にこのように運用している、このような結果が導かれているということこ

ろがあるのか。我々もこの法案があったことを全く忘れていた。

さらに令和元年12月31日の新聞によると、島根県もU I ターンに重点を置き、情報発信を強化していくという20年度の移住対策問題というのが出ている。自然減はとめられないが、社会減はある程度努力や工夫やアイデアで、全員が一生懸命やればできるのではないかと。地域に来てくれ、来て体験してくれというセミナーを開催するというので、これ自体もセミナーだけに留まらず。そのセミナーの内容は当時、農林水産業、伝統工芸、介護の部分で都会地から呼び戻そうという話もあったと思う。特に山陽や関西は高卒の6割が流れている。そういう対策が本当に、我々も含めて効果が出ているか。Uターン問題は実際にその辺が動いているのかどうか。

また今日の新聞によると、我が子に「働き口がないから帰ってくるな」と書かれている。こういう書きぶりをされると本当に頭にくる。間違った対策にもつながるので、議会からも情報発信して。まだ地域資源は掘り起こせば十分あるし、磨けば光るし、やる気を出せば人口減少の歯どめにもなるのだという、訴える部分があればぜひお聞きしたい。

もう1点、田園回帰という本があり、この数年来田舎志向が叫ばれている。総務省の情報にもよると、農山漁村に移住をする予定がある、あるいは農山漁村に移住したい、条件が合えば行ってもよいといった割合が3割超えている現実がある。これは3年前の情報である。一人一人が営業マンとして、山陽、関西、あるいは首都圏に向けて、体験を呼びかけるようなメッセージはどのように送っているか。戦略から戦術に向けてやっているか、お聞きしたい。

この質問に対して。

貴重なご意見感謝する。人口減少に対してどのような戦略を打つかについていろいろなご質問があった。確かに澁谷議員が言ったように出生数を増やすことに対しては浜田市も、何がその原因か、子育て支援が不十分である、女性が安心して出産できないのではということで、議会でもいろいろあった。とにかく子育てに対して大きな力を突っ込んでいこうとしており、これは議会も共通認識としている。そういった中でもなかなか少子化がとまらない。人口減少には少子化対策。

2点目に、出た子どもたちが帰ってこられる環境、雇用場所も含め

澁谷議員
川神議長

てつくること。私には4人の子どもがおり、4人とも浜田に帰って同居している。とにかく浜田に帰っていろいろなことがしたい、仲間がいるということで。多くの親は、浜田には可能性が少ないので外へどうかと言う。この意識をどう変えていくか。家庭教育も含めて学校教育、浜田市は今ふるさと郷育も一生懸命やろうとしている。三隅の和紙体験、乗馬体験、スキー、海水浴など、体験のアクティビティはすごくたくさんある。これが子育てや教育に生きているのか、生きてないのか。

以前も宝探しなどでよいものを拾い上げる取り組みをした。しかしそれが今生きているのか、使われているのか。結局、いつも取り組みはよいのだが具体的に地域内でそれを磨いてない。ではどう磨くのか。議会も地域の宝をどう磨くのか、磨く人材をどうつくるのか。ふるさと郷育も含め教育はものすごく大きい。時間はかかるかもしれないが、まず教育に大きな力を使っていかないといけないと思っている。

余談だが、北陸地方の高校生は学力も高いし帰ってくる率が高いと聞いた。「君たちは都会に出て教育を受けていろいろな体験をして、帰って自分たちのまちを元気にするために進学してくれ」ということをかなり徹底してやっている。つまりそういう意識づけで、帰って次の時代をつくっていかうという意識が非常に高いと聞いたことがある。

一つにはまちを挙げて、帰ってきて何をするのか、どんな可能性があって、なければ何がつくれるのかということのを皆で考えていく。そういう分岐点に来ていると思っている。

浜田市は関係人口を増やしていこうということで、浜田応援団という形で、全国にいる浜田のお手伝いをしてくれる人を増やすべく、定住関係人口推進課をつくった。コロナ禍でリモートワークができた。ワーケーションという言葉がある。仕事しながら田舎暮らしを楽しむ。こういう時期なら三隅も浜田市もたくさんの可能性を秘めている。企業誘致は難しいから、外から関係人口を引っ張ってくる。これも今後の戦略の一つだと思っている。

地元の自然も食も文化も、素晴らしいものがある。どうやってこれを組み合わせて伝えていく、伝える人材教育ができるか、このあたりをベースにさまざまな取り組みをやっていかないといけない。

そういう危機感を皆で共有すること、まずここから始めないと一発ホームランはなかなかない。今始めていつ花開くのか。議会もいろいろな委員会の中で、人口問題は全ての課に係るので、いろいろな取り組みをしながら少しずつ、意見交換で地域の声も聞きながら努力している。

澁谷議員
委員

では地域協議会からご意見を頂戴したい。

川神議長のおっしゃったこともよくわかるのだが、澁谷議員が、人口減少には流出と流入との差があるとおっしゃった。浜田市の定住化対策は流入をメインに置かれて対策されているようだが、流出対策は何を考えているか疑問である。高校生、県立大生、リハビリテーションなど教育機関があるが、それらの学生に対してどのような働きかけを行政がされているのか全然見えない。逆に言えば定住化共生ビジョンなどいろいろ書かれているが、どうも流入に重きを置いた補助やサポートばかりで、流出に対して何をしているのか。

私は民間企業にいたので、収入が減れば出を抑える。当たり前のこと。経済的にすぐそういう指示が出る。

余談かもしれないが、コロナで民間業者は皆困っているが、固定費などの税金はそのまま業者にかかっている。一部行政機関によっては固定費先延ばしなどもされているが、消費税や固定資産税は、とめる気になればすぐとめられるのでは。何もせずにとまるはずなのに、そういうことをしないでいて、どうして補助金を出しているのか不思議で仕方がない。もっと視点を変えて考えてみたらいかがか。

三浦議員

私も入りと出の対策はどちらも必要だと思っている。今の浜田市執行部の施策としては、例えば看護学生や県立大学生などの地元学校に進学する子への奨学金制度を設けている。これは地元学生が地元の学校に通ってぜひ学ぶ時間を増やしてくれという、出を防ぐ対策の一つだと考える。

ただ、十分に出の対策ができているかというと、全体の定住施策としては入ってくるほうにウエイトが置かれているのは私も思うが、これはなかなか難しいところがあり、地元の子の進学に関して、学びたい希望に制約をかけていくのは難しい。しかし一方で地元の魅力や地元はどういった企業があるか、そうした情報に触れぬまま外に目が向いてしまうのは機会損失だと思う。そうした意味で教育委員会ではふるさと郷育だとか、地域と一緒に学んでいこうというよ

うなプログラムもされている。そうした取り組みが非常に有効だと思っ
ているので、教育的なアプローチについてももう少し予算拡充して、
地域の方々と一緒にやっていく。

そうしたときに学校だけではこの教育や絶対に提供できない。そ
こで地域の力が大事になってくるので、社会教育という、学校教育
とは別の、地域からのアプローチ、その協力体制なくしては、地域
の魅力や情報をきちんと子どもたちに提供し、機会損失させないた
めに必須になってくる。直接的な資金提供ではないが、私もそうい
う部分は同調するので、しっかり訴えていく必要があるし、地域の
皆の力が大事だと思うので、それを厚くしていく必要がある。

委員

今おっしゃったことは、学校との関係はわかるが、私も一応東京
に30年近く出てUターンしたものだが、最初に考えるのはまず生活
基盤がどこなのか、就職口があるのか、経済的なメリット・デメリ
ットがどこにあるのか、いざ住むなら家があるのか。逆に言うと島
根に戻ったら車が必須になる。そういうことを含めてメリット・デ
メリットを。可処分所得の中で何が自由に使えるのか。経済的なメ
リット・デメリットをもっと高校生や大学生に。浜田に住んだらこ
れだけのメリットがある、時間も空間もたくさんあるし、仲間もい
るし自然は豊かだし、というのはわかるが、本当に住めるのか、経
済的に。インフラも何もかも。水道代、電気代、土地代、何から何
まで都会に流れるようになっている。

私は介護老人保健施設にしばらく勤めていたので言うが、介護報
酬にしても、全く同じサービスをしていて都会と島根では報酬が違
う。こんなばかな話がある中で経済的メリットを出せと言っても、
出るわけない。公務員も人事院勧告があるが、都会と地方とは当然
違う。どうして違うのか。都会から戻ったら4割5割減る。それで戻
ってこいと言えるか。どのようなメリット・デメリットがあるのか、
もっとはっきりさせてほしい。

澁谷議員

最初に税金を値引きする話があったが、浜田市の場合、自主財源
は70億円。そのうち35億円が固定資産税。それを減額するとなると
基盤になる税金をあまり覆したくないという発想が財務省側にもあ
って、地方自治体の税を担当する担当課においてもそういう気持
ちはあると思う。人口比例で国会議員を選んでいる仕組みなので、都
会のほうに財源が振り分けられる仕組みになっているので、魅力的

なまちになっていく。田舎の可処分所得のメリットが言えるだろうか。人間的なつながりなど、非常にアバウトなことしか言えない。

委員

私が言いたいのはメリット・デメリットを流出者にはっきり言わないと、目に見えない。自然がある、これだけ文化活動をやっている、山や川もある、親もいる、だから残ってくれでは残らない。

澁谷議員

では何がメリットだと考えているか。

委員

物価や賃金が安い、日用品は逆に高い、電車に乗ることがない、子育てしやすい、ゆとりがある、市長も時間がたくさんあると言う。そういうメリットはあるだろう。土地も都会の倍の面積が買える。

三浦議員

給料の金額だけではなかなか、数字だけ見ると勝負にならない。先ほど機会損失の話をしていただいたが、地方企業の機会損失は求人を出していても都会に求人情報が届かない。移住される方がどういう場所を探すかと考えると、自然豊かなところを探したいと思えば、どういう自然があるかを探す。一番はどういう仕事があるか。特に若者は。地方にどのような仕事があり、どういう企業が求人しているかという情報が全く出てこない。彼らはほぼインターネットで仕事を探す、インターネット上に情報が上がってないのはその仕事がないのと同じ。残念ながらそこに情報を載せるには莫大な広告費がかかってしまい、地方の中小零細企業は求人広告を出せない現実がある。これを解消するためにふるさと島根定住財団という県全体の定住を促進する団体が、各19市町村のいろいろな中小企業の仕事情報をそこに出し、自分に合った仕事を紹介してくれるようなシステムをつくっている。浜田市も同じようなサイトを持っている。仕事を探すときに浜田市のサイトを見て探すかという、仕事の情報が多いいところで探す。つまり浜田市が幾らそこで頑張っても、浜田市の企業数と島根県の企業数は違うので島根県のサイトで探してしまう。すると浜田市がやるべきことと、県がやるべきことと、企業がやるべきこと、皆違って来る。県には情報発信してもらおう、だったら市は自分たちの限られたお金をどこに使うべきか。企業にはどういうことを頑張ってもらうべきか、こういう役割分担をしていくのが最適化だと思う。現状、こういう情報が出てないのではないか、もっと出したほうがよいのでは。市として何が足りてないのかを見極めながら、有効活用できるお金の使い方をしていかないといけない。それを我々が、流入にウエイトが置かれて予算が割かれ

ているのではないか、出るほうの対策にもっとお金をかけたほうがよいのではないか、こういう視点を持って市役所が行っている施策に対してどうかと向き合っていくのが我々の仕事だと思うので。

まとめるわけではないが、先ほどおっしゃったようにメリット・デメリットをしっかりと伝えていくことは我々も視点を持って、定住対策施策に向き合っていきたい。

澁谷議員
委員

ほかに意見を頂戴したい。

私は人口減少や定住対策の質問は出してないが、先ほどから話を伺う中で、一つの施策として子育て支援に重きを置くようなことも言ってもらった。最初に澁谷議員が、前年度の出生数が大変少ないと言われた。それは人口減少による若い世代の減少によるものだと思う。ただ人数だけを追うのではなく、今子育て支援に力を入れておられる浜田市にもっともっと力を入れてもらいたいが、私は保育所に勤めており、保護者の状況を見ると一家族で3人の子どもは当たり前。中には4人、うちには5人いる職員もいる。子育てしやすい浜田市に近づいていると思っている。令和3年度からもいろいろ施策を行っていると思うが、目の前の出生数だけでなく、若者をU I ターン含めて浜田市に呼び込めるかをしっかり考えていくべき。

浜田市のメリット・デメリットという話があったが、人それぞれある人にとってのメリットが別の人にとってデメリットかもしれない。浜田市のありのままの姿、浜田市はこんなまちだと自信を持って、一般的にデメリットと言われるところであっても自信を持って発信できるように。それでもって都会の方が選択すればよいのでは。

私も子どもに帰ってこいと言えないと、私も以前は思っていた。しかし1人こちらに戻ってきて、生き生きと生活している。本人なりに地元の魅力を見つけて、気持ちを切りかえたのだと思う。今は、親は「帰ってこい」と言ってやってもよいのではという思いでいる。家庭を持って生活主体が都会にある者に言うのは無理かもしれないが、1人で頑張っている子どもに「帰ってこい」という言葉をかけてやれるのは親しかいない。帰ってきて自分ができる仕事を田舎で探すのも、一つの生活なのかと思う。皆の意見を聞いていて自分も反省することが多かったので、述べさせてもらった。

小川議員

私の娘は現在高校3年生である。高校2年生のときに地域課題についてかなり勉強するようだ。我々も議会報告会などで市民の意見を

聞くのだが、高校生は高校生の視点で浜田の課題、教育、産業、人口減少の諸問題を勉強している。公共交通機関を利用して通学する学生が、待ち時間の間に勉強するスペースがほしいと。図書館が近いが飲食はできないしほかの利用者の迷惑になるから雑談もできない。医療センターのロビーが結構使われていたのだが、今はコロナの影響で閉鎖されている。すると時間待ちで勉強するスペースがない。駅前には空き店舗が多いので、そういうところに学習スペースができればよいという要望が学内で出されたい。しかし授業内ではそこで終わったという話を聞いた。

せっかくそういう課題があるなら市に提言してみるとか、議会でも陳情・請願という制度があるので、高校生の視点で問題提起すると、議会に伝わり、それを取り上げてくれるまちの雰囲気があるとなれば、その子たちにとっては、浜田は自分たちにも少しは寄り添ってくれるまちなのだという思いが、いつかはプラスになるのでは。

江津には駅前にパレットごうつという施設があり、あそこは高校生が時間待ちで結構勉強や軽食などで利用していて、うらやましいというのが浜田の高校生の気持ちらしい。高校生の要望にも寄り添って行けるまちであるべき。校長先生とも話をしている。

ただ先ほどから話があるように地域で暮らすメリット・デメリットでいうと、皆から出してもらったテーマの中で私が一番深刻だと思ったのが9番の中山間地の生活の展望だった。今後10年、山間地に残る世帯は数軒もしくはゼロとなると、仮にUターンで帰ったとしてもJターンになってしまうのでは。今の場所に住み続けることがその人にとって幸せですばらしい人生だったら、恐らく子どももそれを見て、将来は帰ってこられるという感覚が身につくのでは。今暮らしている方々が本当に今の地域で暮らすために、日常の買い物や通院を含めて、ここで幸せな人生を送れたということがあれば、それが子どもたちにも伝わっていく気がした。9番を書かれた委員にできればもう少し詳しく話を聞きたい。

9番の方には後で聞く。次の方の話を。

私はUターン。主人が転勤族なのでどこか重点を置いたほうがよいと思って実家の近くに帰ってきた。ここに帰って思ったのが、子どもの遊ぶ場所がない。上の子は小学校に二つ行ったのだが、公園がすごくあってゲームなどほとんどしなかったのだが、ここに帰っ

澁谷議員
委員

西村議員

てきたら皆ゲームで、ネットでしかつながらない。それが一番ショックだった。ここで育った子がここに帰りたかと言われたら多分そうではない。子どもが遊べてなおかつその子が帰ってこられる場所をつくってほしい。

かみ合わない意見になると思うが、私も振り返ってみて感想を述べたい。

私は平田出身で就職して広島に長らくいて、長男が中学2年のときに転勤でこちらに来た。3年から5年勤めてから平田や出雲に帰るつもりだった。遊び場が少ないと言われたが、浜田のど真ん中は校舎が非常に古いという印象を強く持った。あと風が強い。

人口減少の関係で自分の人生を振り返ると、就職のときに真剣に向き合う必要があったと思っている。それは長男が就職するときも、娘が大学受験をするときも、その視点が自分自身に欠けていて、子どもの人生を親としてどのように考えるのか、その真剣さが自分に欠けていたと思う。今になって40を超えた子どもに、帰ってこいと言ったこともあるが「勤め先がない」の一言で返されると私としては何も返す言葉がない。本音はどうにかなると、心の底では思っているが、しかしそのような無責任なことは言えない。もう少し大学受験のときから人生設計と一緒に真剣に悩む姿勢が私自身に足らなかったという後悔をしている。

今回のテーマとの絡みでいうと、私は少子化問題についての意識を強く持っている。平成17年、18年ごろから十数年、出生数400人前後を続けてきた。しかしこの5、6年に急に右肩下がりになった。そこに何があるのかが私の問題意識である。その原因究明をしっかりとしないと、間違った対応をすることになるのではと。議員として突っ込んで分析する必要があると思って取り組み始めている。

本当に市が力を入れている財政的支援が、果たして功を奏するのか、現実に見合った策なのかという点では、それは極めて一面的で、ひょっとすると大きなずれが生じている可能性もあるのでは。

しかし私もスタート地点に立った状況なので、現時点でこれ以上は申し上げられない。こういう問題意識を持ちながら人口減少あるいは少子化問題に取り組んでいる。

澁谷議員

子どもの遊び場がないという意見があった。弥栄でも20年間、保護者が役場に訴え続けてきたがつくってもらえてないという叱責を

いただいた。公園が足りないと思う。

三浦議員 具体的に子どもの遊び場としてどういう環境があるとよいと思うか。

委員 公園や、ボールが蹴られる場所など。蹴っていたら危ないからと近所の人からとめられる。縄跳びしていたら危ないからととめられる。できないことがすごく多い。本来外でできることができない。

三浦議員 そういう制約がかかる場所ではなく、子どもたちがやりたいように遊べる場所、環境があるとよいということと理解した。

布施議員 公園があってもいろいろな制約があってできない。私の地元の黒川町は文化ゾーンで広場はあるのだが、共用スペースのために子どもが使える機会が減った。行政として子どもが中心になって遊べる場所をしっかりと確保する。車の問題もあるが安全性を考えて場所を提供してあげる。シニアと共有できるような、一緒になって遊べることも大事だと思う。

人口減少について、私は娘3人のうち1人が帰ってきてくれたが、まだ結婚していない。自分の子どもに結婚しろと何度も言うとうるさがられる。浜田にも未婚の男女が結構いる。世話焼きが昔ほどいなくなったせいで独身者が多い。AIなどのマッチングも必要になってきたのでは。そういうことが人口減少を少しでも解決する方法になるのでは。また子どもたちが生き生き遊べる場もつくっていく必要があるのではないかと、皆の意見を聞いて思った。

澁谷議員 先ほど小川班長から9番のテーマを出した方から意見を聞きたいとの要望が出たが、どなたか。

委員 井野のことだが、私の集落は9世帯であり皆高齢である。あと10年もすれば皆亡くなるだろう。すると私のような50代がいる3世帯がかるうじて残る、もしくはうち1世帯は出ていくような気もしている。私も2年広島にいてUターンしたのだが、私は地元がよいと思って納得して過ごしている。私は長男で土地もあり家もあるので大事にしていきたいという思いもあった。

過ごしてきて感じるのが、これからどうしたらよいか。住んでいくしかないのだが、1人でも安心して住める、もしくは老いた親を抱えても安心して住めるのであればよいと思う。

介護も充実させて、今は買わないといけないものも支援してもらって。その辺の相談をもう少し気楽にできる感じにしてもらいたい。

また独居老人がいざという時のために「早助^{さすけ}」を利用している方がいるが、まだ十分に行き渡ってない。知らない方もいる。これから光ケーブルが入れば通信関係で素早く助けを求められる。見守りも含めてそういうものも充実してほしい。1人でも田舎で安心して暮らせるというPRをしっかりとっていただきたい。

各地域にそれぞれの魅力なり特徴がある。文化遺跡もあれば歴史もある。そういうところが多分皆わかってない。町内にいてもわからない。昔は有線放送で晩に地域の昔ながらの物語を流して、町内でもよくわかっていた部分もある。今はそういう文化的な発信が全然ない。ケーブルテレビでやっているが、町内でもそういうのが全然わからない。どこにどんなよいものがあるかわかってない。だから皆でPRしようという機運も起こってこないのでは。

教育関係で言われたことは本当だなと思って私も感動した。昔よかったのが、合併前の教育委員会で、ゲートボールやグランドゴルフ、ペタンク、インディアカの普及で町内の皆と一緒にやらせてもらった。それもあっていろいろな軽スポーツが盛んになった。綱引きはリハカレの学生も一緒にやって楽しかった。インディアカで人的交流も増えた。各町で活動する母体が今はすごく少ない。体育指導員というのがないので。あれば若者同士の交流が生まれたりするのでは。昔が懐かしい。

商業施設、これは企業の考えもあると思うが旧お魚センターの周辺にはいっぱい空地がある。あそこにもっと大型商業施設が来てもらってもよい。益田にはどんどん立っている。こちらにも誘致できたらもう少し活気が出るのでは。

各地域で、浜田ではこれを大事にやっている、三隅ではこれに力を入れているなど、声を上げてPRしたらよいのでは。どうもPRがはっきりせず、同じ市民の間でも伝わってない。全部の情報をケーブルテレビ頼みにするのではなく、皆に行き渡るようにできたらよい。

小川議員

子どもが都会に出ている方が共通して言われるのが、引き払って都会に出てきたらどうかという誘いを受けている。しかし都会に行ったら自分のすることがなくなって、便利で生活には困らないだろうが、今いる場所にしか自分の居場所はないということで、幾ら誘われても自分はここで暮らすのだという方が結構おられる。大型商

業施設が瀬戸ヶ島にできてはなかなか利用は難しいかもしれないが、日常的な買い物や通院でも、三隅ではひゃこるバスが充実していることもあって、そういうことも当然必要なのだろう。生活インフラを今ある財源で精いっぱい支える体制も必要かと感じる。田舎で暮らす中で長く生きていける、自分の生活リズムを崩したくない、都会に行ったら全てなくなってしまうことに対する抵抗、自分の生きざまを大切にできるようなまちづくりが必要かと感じた。

委員

布施議員が言われた婚活関係だが、県で「はぴこ」というのをかなり前からやっている。私も相談員で、あちこちでマッチングするのだが、そのときに個人情報に係ってくるので、そこまで踏み込んでいけるのかと。私はあまり活動していない。

市がまた婚活的なものを始めたと先日見かけた気がした。県がやっているから市もやるのかと見たのだが、同じようなことをしても成果が上がるのか。委託だけか。今はものすごく個人情報関係がうるさいので、それが難点だと思う。

また最近新聞で邑南町や江津市をよく見る。まちづくりも一生懸命にやっていると思うが、市の取り組み方が違って、変わってくるのかと。例えば雲南市はものすごく進んだことをしている。江津市がいろいろなことでよく話題になっている。まちづくりもしっかりやっているのでは。その辺の取り組み方についても浜田市はどういうことをしていくのか、お伺いしたい。

もう1点、人口減少や定住について。うちのまちづくりでは「かえる～の子事業」をやっている。Uターンを促す事業をうちの、ある部でやっている。そういう呼びかけをして、浜田はよいのだと、子どもに思い浮かべさせることをするのもよいのでは。

澁谷議員

まちづくりの話が出た。

三浦議員

江津市、雲南市、邑南町、これらのまちの施策を見ると、江津市はビジネスプランコンテストに10年間取り組んでいる。雲南市は「チャレンジを応援するまち」というスローガンを掲げて、チャレンジを市民が発表して、それを皆で応援して形にしていくという取り組みを9年くらいやっている。邑南町はA級グルメの活動ということで、食を核にしたまちづくりをこれももう10年以上やっている。浜田は何かというと、それに並ぶ事業はぱっと思いつかない。久保田市長は今いろいろな施策をやっているが、例えば子育てというキ

ワードを出したとき、邑南町が「子育て日本一のまち」というキーワードを早くから掲げて、そういう施策を。一つ一つを見れば浜田のほうが手当が厚いことがあっても、継続した取り組みがそのまちの印象として、イメージとして、これは宣伝効果もあると思う。浜田市の各地域に目を向ければ、旧自治区ですっと取り組んできた事業がある。そうしたところに光を当てながら、何を継続的にやっているのかうまく情報発信していくことが浜田にとっては大事なのではと思っている。

継続的にこういうことをやっていくのだというメッセージが、帰ってきてほしいというメッセージに変わらなっている。自分が生まれた浜田はずっとこういうことを取り組んでいるのだと伝わらないと、今年はこの、来年はこのやる、というように、思いは変わらずともやっている活動が単発的になってしまうと外から浜田市を見る出身者や移住検討者には、メッセージ性が弱いと感じている。一貫した市役所のメッセージは大事にしてほしいと思っている。

川神議長

最近、浜田のまちづくりのスローガンがとても長い。それを聞いた時点で浜田を印象づけるものでもない。

まちづくりが成功している事例を見ると、意外と短くインパクトがある。共通した一本に絞り込んで市のメッセージを出していく。それも長く地道につなげていくことが、とても大事だと思っている。市長が変われば方針も変わるが、そこは住民のさまざまな意見を集約して、このようなまちを目指すのだというメッセージを、今からでも遅くない。このあたりを住民と一緒に絞り込めたらよいと思う。

委員

人口減少についてはやはり結婚して子どもが生まれて、学校に入ってからで、それぞれ支援策は掲げられている。企業誘致、Uターンはどうかということになるのではと思っている。浜田の総合振興計画でも5か年で12社という目標を出しているが、結婚したい人にはどんどん出会いの場を広げて、結びついてほしい。しかし結婚を望まない人もいる。子どもは3人目から支援する形だが、支援されたから3人目を産もうという気になるかは疑問だ。自分たちの生活があるので。30万円もらえるから1人増やせるか。そういう実態があるのでは。

Iターンは未知の世界に入ってくるため、よほど浜田市の魅力がインパクトを与えないとできない。Uターンは地元で育って地元を知って愛着がある方々だから、定年後は親のそばで老後を送るため

布施議員

の支援策があってもよいと思う。地域で高齢化が進み、空き家が増えていく。空き家対策にもなるのではと思っている。今後地域を支える者が減っている。一番有効な手段としてはUターン。老後を地元で送る選択肢があってもよい。

人口減少、企業誘致、結婚と、多岐にわたる心配はよくわかる。三隅のまちづくりの中で、自治区制度が終わりこの4月から協働のまちづくり条例ができて、公民館がまちづくりセンターの機能を持って地域の諸課題を解決していく。地域課題は地域コーディネーターが配置され、皆と一緒に問題解決に汗を流すよう行政も配置しているが、地域問題は皆が一番よく知っているだろう。私は浜田市の市街地の人間として、三隅のまちづくりは、我々の黒川町内は8町内までであるが、協働のまちづくりは全然できていない。自治会もない。単独町内である。インフラ整備は三隅よりできているが、問題はお互いの助け合いが全くできてない。盆踊りもない状態である。ただ町内ゴミステーションの管理と年2回の草刈りのときに、近所の新顔に気づくような状態。

委員が言うように地域課題はそれぞれあってしかり。結婚にしてもいろいろな手当てをする。昔に比べると補助金も私が子育て現役だったころよりついていると感じる。あるものをねだるより、ないものをどうやって協働して解決していくかも考える必要があるのでは。それが協働によるまちづくりだと思う。

限界集落を迎えるという話も出た。これも集落維持のためには単独町内で頑張るのではなく集落を再編し、地区全体で支え合うのが協働のまちづくりだと私は思う。そういう姿を見せることで子どもたちが、親世代がこの里山を守っているのだという姿を見せれば、将来的に帰ろうかと。ふるさととはふるさとあってのこと。それを強く子どもたちに訴えることが必要では。

一つ、余談だが今後30年に南海トラフが80%の確率で起こる。起これば太平洋側はかなりの被害を受ける。それも想定しながら。日本は自然災害が非常に多い。二極化居住、子どもは都会にいるがこの時期はふるさとに帰る、しかし働く場や生活基盤は都会でもよい、こういう提案もできると思う。小松左京の「日本沈没」という映画をご存じか。ラストに残ったのは島根県浜田地方。それだけ地盤も安定している。浜田は災害に強いまちになった、ぜひ帰ってくれと

言えば、よいものになるのではと思った。そういうことを含めてまちづくりに邁進していただきたい。

澁谷議員

予定時間を過ぎたようである。最後にこれだけはぜひ言っておきたいというご意見はあるか。

委員

先ほど、定年後にはUターンして暮らしを楽しく皆と一緒に老後を送ろう、あるいは介護のために定年後は田舎に帰って暮らそうとすることがあるのだが、先ほどから私が言っているように、都会に人口流入するように国の仕組みがいろいろな形でそうになっている。介護保険でいうと、介護保険料は行政組合で地域別に決められるので、医療費なり介護保険はこれから手間がかかる人たちがどんどん入ってくれば、40歳以下を含めて介護保険料が皆上がってしまう。浜田市は今、7千円近くだった。全国でも7千円を超えるところはそうない。介護保険が決まった当初は5千円でいくとしていたのがどんどん上がる。仕組みを少し変えて、視点の当て方を考えて、本当にここに住んでいてよかったと思えるまちづくりを皆で考えていかないと。議員も職員も我々も。でないといとどんどん若者に負担増させるような政策をしていると、本末転倒だと私は思う。この場にいる皆に言う、もう1回その仕組みをよく考えた上で、どのような仕組みにこの浜田市がして、協働のまちづくりが本当にできるかどうか、考えていただきたい。

澁谷議員

以上でよいか。ほかにあるか。

委員

大きい話と小さい話をする。私が言いたいのは、この会もそうなのだが、どうも人の意見を聴く体制になってないのを何とかしていただけないか。冒頭に、政策課題として提案するような話もあったが、行政のほうで政策決定するに当たって、市議から出た意見をきちんと受けとめてそれを反映する仕組みがなっていない。何が原因かというQ&Aに終わってしまって、その後の手だてがないことと、積み上げ方式になっておらず、つくることに一生懸命でロードマップ業にかかっているのでは。やっていることはやっている、恐らく。それが市民によくわからない。恐らく人口減少や定住についてというのは三つあって、産み増やす、出さない、呼び戻すだと思う。出さないというところも、水産高校にしても新卒者を浜田の漁業者にということを一生涯懸命、学校を含めて努力している。目標人数を達成すれば100%。そこまで。そうではなく、その子が水産高校でどう

いう教育を受け、ふるさとに対するどういう思いを育てて、自分がここに残りたいとなぜ決めるのか、決めて就職した後になどどのようなになっているか、誰もわからない。そうではなくて。昨年度の9回目の会議の際に私が渡した資料だが、総合振興計画の浜田市の考え方。この中にすごく大切なことがいっぱい書いてある。行政がどう受けとめているかわからないが、考えますと書いてあるが、本当にそうなるのかをきちんとやってもらいたい。

代表的な例を見ると人口減少問題について「究極の目標は人口が少なくなっても住民が幸せに元気で生き生きとして生活できるまちをつくるにはどうしたらよいかという視点を失わないこと」とある。三隅は進んでいると言われるが、最初に自治会で計画をつくって皆頑張っている。三隅は全体で見ても集落再編成はもう20年も前から始まっている。要は現場を見ていただきたい。進んでいる、進んでいるではなく、進んでいるがゆえにどういう問題を抱えているかを見ていただいて、他例に使っていただきたい。浜田市全体で何百人減ったという話ではなく、もっと切実な問題がある。自治会でランドセルを負う子がいなくなったとか、そういう問題に直接つながっていて。その中でも全体で暮らしやすくするために皆でないなら、ソーシャルキャピタルという観点で内々の再編成をする。できないところは地区まちづくり推進委員会で片づける。それすら難しいこともある。市民には市民の分担された任務がある。それをきちんとやることで、行政との協働の源になっていると思う。それは何かというと、自発的な協力を引き出せるかどうか。単位自治会がそれをずっと持っておられるかどうかが一番問題。それがだんだん厳しくなったということをきちんと受けとめていただきたい。

水産高校の話もしたが、前は卒業される方で浜田市内の各種学校を前は訪問したようなこともあったが、今はないのか。前は浜田市でやっておられたと思う。浜田市の魅力そのものを浜田市がわからない。市民から貴重な意見があるけどそれをうまく反映できない。その辺に課題があって、川神議長が言われたように、タイトル的にも簡素で美しい姿になってない。その辺を工夫して、皆が本当に住みやすいまちだと認識していただく努力を、行政がどういう仕事をしているとか、どういう補助金をやっているというのをテレビでやるのではなく、市民がどういう場合に生き生きと生きているかを映

像にして流すべきだと私は思う。それができなければ恐らく。それは、恥ずかしいからあまり言いたくないけど、でもこれは頑張っているということも含めてだと思ふ。ありのままをきちんと伝える。それは映像が一番わかりやすいと私は思う。同じ方向を見て進んでいけるような努力をやっていただきたい。自治区制度は当時、県も含めて市民も議会も行政も含めて皆で考えた衆知のエンジンだと思ふ。考え方のエンジンである。それにかわるものが今新しく始まっているので、それを一生懸命やらねばならないが、努力を怠ることで曖昧な創出になってはいけない。そうならないように皆で役割分担しながら浜田市のあるべき方向へ向いて一生懸命努力する。皆で頑張っていることが体感できるような映像をぜひアピールしてもらえば。アピール不足はその辺に原因があるのかと思ふ。なりわいの部分と伝統の部分、自然を守ってやる部分がうまく分けられない部分もあるかと思ふが、水産業で誰がどういうぐあいに頑張っている、農業や林業で誰がどう頑張っている、それをシリーズものみたいに。BUY浜田の商業みたいなのがある。島根県もやっている。県民歌を流して。その二番煎じでも三番煎じでもよいから、浜田市の今の魅力をきちんと訴える。もしくは浜田市の進むべき方向を皆に理解してもらおう。そういうのを映像という簡単なツールでわかりやすく説明することが、一番大切なのでは。分厚い計画を見てもわからない。わかってももらえればもっと協力してもらえるし、考え方を理解してもらえるし、もっと建設的な意見もあるし、気づかないうちにできていることもたくさんあるのでは。

澁谷議員

奈良県生駒市の若い市長が提唱しているのが、自治体3.0のまちづくりという言葉である。今までの市民の要望に応える自治体というのが、市民の要望も非常に広範囲にわたってきて職員だけでは対応できない時代を迎えている。その中で自治体3.0とは職員や議員がまちに出て行って、市民の英知と行動をともにしながらまちをつくりたいという考え方である。でないと、デジタルやAIなど高度な専門能力が必要な時代になかなか対応できない。今はそういう専門能力の高い職員も現場にはいない。地域協議会も行政も議会も一緒に行動し、考えていただく。今日はその一歩ということでご理解賜ればと思っている。

6. 地域協議会副会長終わりの挨拶

澁谷議員 最後副会長に締めのご挨拶をいただき、本日終了させていただきたい。

副会長 今日は皆に意見を出していただいた。議員にはいろいろな面で吸収してもらい、発表してもらおうように今日の会議を活用いただければと思う。非常に長時間だったが、今後もこういう機会があればなお一層発表していってもらおうよう、よろしくお願いします。

7. 閉会

澁谷議員 事務局から次回の連絡があるそうなので。

事務局 今年、浜田総合振興計画の後期基本計画を策定することとしている。それに当たり地域協議会で説明することになっている。6月中旬ごろに開催予定としている。また日程については正副会長で協議し、また皆にご案内する。その際にご出席をお願いします。

澁谷議員 もう1点議会から連絡させていただく。

三浦議員 7月11日に浜田市議会として、はまだ市民一日議会というものを開催する。これは市民に、今日もいろいろ意見を伺ったが、そうしたご意見を今度は議員全員で議場で聞こうという試みであり、初めて行う。テーマは自由。今日もご発言があったが、普段思われていることを改めて議場で発表する機会を持つので、ぜひエントリーしていただけたらと思う。締め切りが6月9日になっているので、ご検討いただければと思うようよろしくお願いします。

澁谷議員 今日いただいたご意見については、議会に持ち帰り今後どのように進めていくかなど、議員全員で協議し、改めてお返ししたい。

以上をもって三隅地域協議会と議会との意見交換会を閉会する。

[21時 28分 閉議]